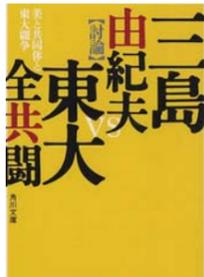


# 思想・哲学



## 美と共同体と東大闘争

【討論】三島由紀夫 VS 東大全共闘

三島由紀夫【著】東大全共闘【著】  
角川書店 2000年

推薦者：教員 渡邊史郎

### 《紹介文》

本書は、1969年5月に行われた三島由紀夫と東大全共闘との対話の記録である。この翌年、三島由紀夫は自衛隊で自決事件を起こしたが、それは連合赤軍事件と共に、社会的には「犯罪」であるがゆえに、結局何が問題になっていたのかが看過されがちであった。政治的には対極と見える三島と全共闘のやりとりを再検討して、本当は何が本質的だったのか考えてみたい。

### 《レポート課題》

三島由紀夫と全共闘に共通する側面について自由に論じなさい。



## 人間の集団について

—ベトナムから考える

司馬遼太郎【著】  
中央公論新社 1996年（改版）

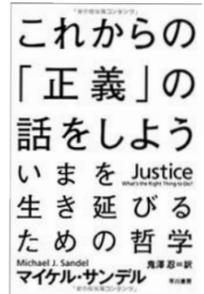
推薦者：教員 金正貴美

### 《紹介文》

この本を読むと、ベトナムに行ったかのような感覚を抱く。ベトナムの人の物の見方や考え方が痛みを伴いながら芯からわかり、そこには歴史の狭間で呼吸をしている人間の集団が存在している。

### 《レポート課題》

この本を読んで「人間の集団」とは何か、そしてその集団のなかで、個性ある人間としてどのように成長したいと思うのか、あなたの考えを書きなさい。



## これからの「正義」の話

いまを生き延びるための哲学

マイケル・サンデル【著】  
鬼澤忍【訳】  
早川書房 2011年

推薦者：教員 吉田裕美

### 《紹介文》

ハーバード大学のマイケル・サンデル教授が行う講義「Justice（正義）」の人気は高く、テレビ番組でも一般公開された。現実起こった問題として取り上げられる様々な事例には、賛成論、反対論が存在する。背景によって、状況によって、道徳的価値観によって、似たような事例であっても賛否の判断基準や考え方は異なる。「正義」とは何か、古代から現代の哲学者の言葉や理論を踏まえた見解を展開しつつも、この本が勧めているのは以下のことである。正義に関する自分自身の見解を批判的に検討し、自分が何を考え、またなぜそう考えるのかを見極めてみよう。本書では、「正義」に関するアプローチとして、福祉、自由、美德の三つの考え方の強みと弱みを探り、人間社会における価値観や考え方、人間社会における議論の必要性が紹介される。

### 《レポート課題》

人間社会において議論が必要だと思われる問題や事例（自分がこれまでに経験した事象や本文中の事例でもかまわない）を一つとりあげ、賛成論、反対論の立場を考えながら「正義」に関する自分の意見や考えを自由に述べなさい。もしくは、この本全体を通して感じた「正義」に対する意見や感想を自由に論じなさい。



## 「待つ」ということ

鷺田清一【著】  
KADOKAWA/角川学芸出版 2006年

推薦者：教員 金正貴美

### 《紹介文》

この文学作品は、「待つ」ということが、人にとってどれだけの経験と成熟をもたらすことができるのかということを見せてくれる。そもそも待つということは人にとって苦しいことだ。ひたすら待つなかで待つ人それ自身が与しながら気づいていない何かの訪れは、静寂した心に控えめに指し示され、わたしたちは「待つ」の別の定義にたどりつくようになる。待たなくてもよくなった社会で、待つことへの感受性を高めたい人に読んでほしい1冊である。

### 《レポート課題》

人にとって待つということが、どのような経験と成熟をもたらすのか、あなたの考えを述べなさい。



## ソクラテスの弁明

プラトン【著】  
田中美知太郎・藤澤令夫【訳】  
中央公論社 2002年

推薦者：教員 石川徹

### 《紹介文》

古代アテナイにおいて、ソクラテスは告発を受け公開裁判に臨むことになった。本書は告発に対してソクラテスが弁明する議論を描く。死を恐れることのない真に知を愛する者の姿を描いて西洋の知的伝統の最も根底に存する書である。出来ればソクラテスの死刑までを描いた『クリトン』『パイドン』も読んでほしい。

### 《レポート課題》

ソクラテスという特異な人物の生き方について、何故彼が哲学者の代表と言われるのかを考えた上で、自由に論じなさい。

# 歴史・伝記



## 猿橋勝子

という生き方

米沢富美子【著】  
岩波書店 2009年

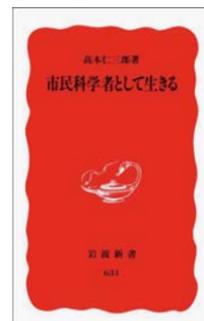
推薦者：教員 笠潤平

### 《紹介文》

本書は120頁ほどの小ぶりな本だが、顕著な業績をあげた女性科学者に与えられる猿橋賞とともに知られている世界的な化学者猿橋勝子(1920-2007)の初めての伝記。一読すると、小学校時代の女性の先生への道東京女子医専の面接の際にきっぱりとやめるエピソード、核化学への没頭、ビキニ事件の際の日米の放射性物質の分析競争などを貫く、彼女のまっすぐな誇り高い生き方に尊敬を抱かざるを得ない。

### 《レポート課題》

猿橋勝子さんの生き方は、社会の中で人がどのように生きるかということを変更して真面目に考えるきっかけになると思うが、皆さんはどのように感じるでしょうか。彼女の人生に何を思うか、エピソードなどを引きながら自分なりに論じてみてください。



## 市民科学者

として生きる

高木仁三郎【著】  
岩波書店 1999年

推薦者：教員 笠潤平

### 《紹介文》

2000年に62歳の若さで逝去した高木仁三郎氏が、原子力発電と放射性廃棄物の危険性について真摯で科学的な警鐘を鳴らし、日本の原子力行政を粘り強く批判し続けたことはよく知られている。現在、原発事故の可能性を論じた彼の文章はその正確な予見性によって国内外で改めて多くの人に読み返されている。本書は、同氏がガンと闘いながら、現代における科学者の新しいあり方を探るために苦闘した自己の軌跡を振り返った自伝的文章である。

### 《レポート課題》

高木仁三郎は1938年に前橋生まれ、国民学校1年の夏に米軍の空襲に燃える郷里を見た。そして敗戦を迎えた。だから彼はいわば戦後民主主義教育とともに育ったのである。秀才だった彼は東大に進み核化学者となる。しかし会社や大学で自分が携わる研究や現代社会における科学者の意味について強く自問する。もし本書を読んで氏の生き方や問題意識に関心が湧いたら自分なりに論じてみてください。よろこんで読ませていただきます。

# 社会・政治



## 爆撃

ハワード・ジン【著】  
岸本和世・荒井雅子【訳】  
岩波書店 2010年

推薦者：教員 笠潤平

### 《紹介文》

第2次大戦中アメリカ軍の爆撃手だったハワード・ジンは退役後歴史学を学び南部の黒人女子大学の教員となる。アメリカの市民的不服従の伝統を受け継いだ彼が語りかける言葉と行動は驚くほどシンプルだが人の心を動かす。彼はまもなく公民権運動、ベトナム反戦運動の中で誰からも最も信頼される人となる。本書はヨーロッパでの最後の任務だったフランス・ロワイヤンでの終戦直前の爆撃と広島・長崎の原爆投下とを振り返る2つの文章からなる。

### 《レポート課題》

序文から最後までを通して本書を読んで著者は何を言おうとしたのか、あなたが受け取ったこと、考えたことをどうぞ文章にして見てください。また、彼の本を他に探して読んでみてください。あるいはまたYouTubeで彼のインタビューや講演を探して視聴してみてください。それらを踏まえて、本書を読んで考えたことを膨らませてよいです。



## 訪問看護師が

知った「生」と「死」のゆらぎ

川越博美【著】  
日本看護協会出版 2016年

推薦者：教員 金正貴美

### 《紹介文》

訪問看護師として在宅ケアの現場で奔走され、「誰もが当たり前で死にゆくことのできる地域」づくりに取り組み続けておられる先生です。本書は、がん患者としてのご自身の経験と、死に向かっている人々に訪問看護師として出会った経験がつけられています。本書を読むことで、誰でもいつかは迎える死について考える機会になると同時に、死にゆく人に寄り添うことの意味について自分の考えが芽生えると思います。

### 《レポート課題》

死にゆく人に寄り添う意味について、あなたの考えを書きなさい。